

2. ディスポーザブルクリップ装置（新型装置）の有用性の評価

—リユース既存装置との比較—

大腸肛門病センター高野病院 内視鏡センター

内視鏡技師 ○西坂 好昭、松平美貴子

医師 野崎 良一、中村 寧、山田 一隆

【はじめに】

前回、新製品であるディスポーザブルクリップ装置（新型装置）の使用経験と有用性について報告した。今回、さらに症例を蓄積しながら装置の性能を評価した。クリップの装填性能、操作性、回転性、つかみ直し機能、吸引性能等を既存のリユースのクリップ装置（既存装置）と比較した。その結果、優れた成果が得られ既存装置に変わるデバイスとして期待できるため、有用性について報告する。

【ディスポーザブルクリップ装置の紹介】

新型装置の名称は、SAIKEI（株式会社カネカ）とTomel Clip（Century Medical）の2種類があるが、装置は同じ製品である。アプライヤ有効長は1650mmと2300mmである。シース外径は既存装置が2.75mmに対し、新型装置は2.3mmと細径である。装置の構造は既存装置と大きな違いはない。クリップは爪角度90度と135度の2種類がある。新型装置の特徴は、ディスポーザブル製品、容易に回転する、つかみ直し可能、操作が簡便であることがあげられる。

【方法】

新型装置と従来から当院で使用しているリユースの既存装置を比較した。①コストパフォーマンス、②クリップの装填性能、③装置の操作性、④回転性、⑤つかみ直し機能、⑥吸引性能、⑦耐久性、⑧透視像について比較検討を行った。

【結果】

低コストで使用価値が高いため、既存装置と比べてもコストパフォーマンスは良いと思われる。クリップの装填、シース内への収納、回転性、クリップの開閉、クリッピング、一連の流れは簡便で操作性は優れている。当院内視鏡スタッフにおいても、経験の長さに関係なく全員が操作できるようになった。また、つかみ直しができるのは最大のメリットであり、無駄のない的確なクリッピングが可能になる。シース外径が細径のため、鉗子口内へ挿入した状態でも吸引機能が保持されるため治療中のストレスが少ない。ディスポーザブルだが、耐久性に優れており数十発打っても機能は劣らず破損することはなかった。

透視上での撮像性にも優れており、マーキングクリップとしても有用である。

【まとめ】

新製品であるディスプレイダブルクリップ装置（新型装置）の性能は優れており、従来から使用しているリユースのクリップ装置（既存装置）と比較しても遜色はないと思われる。今後、新型装置は既存装置に変わるデバイスとして期待できるものである。